

令和4年度第76回栃木県芸術祭美術展審査結果（洋画部門）

| | | | |
|-------|------|---------|------------|
| ○応募総数 | 177点 | [175点] | |
| ○入賞点数 | 9点 | [9点] | |
| ○入選点数 | 111点 | [115点] | * []内は昨年度 |

【審査寸評】

12年ぶりの審査に参加しましたが、100号の大作が多くて驚きました。
描かれたモチーフも表現方法が多種多様で、レベルも数段高いように感じました。

○芸術祭賞「静寂」

作者は長年「樹木」をテーマに取り組みられています。
今回の作品は、水辺の溪谷を水彩により見事な空間表現になったと思います。
前景の岩場から、ゆっくりとした遠景へと緊張感あふれる画面と品格を感じます。

○準芸術祭賞「蓮華」

この作品のカラーメゾチントは大変手間と根気のいる技法ですが、素晴らしい作品になっています。
今後が期待される作家だと思います。

○準芸術祭賞「初秋の水辺」

水辺のさわやかな風景である。画面を横切る川と木々の構図が大胆であり、大きさを感じる作品となっています。色調をおさえたこち良い雰囲気も好感をもてます。難を言えば、水辺の強さがさらに加われればと思います。

○U25賞「始祖蟬」

制作意図として地中深く幼虫として過ごし、地上にサナギとして現れ、羽化し、短い命を削る様に鳴く蟬の魅力を感じたそうだ。その祖先として巨大な蟬を想定して絵画化した作品とのことである。
線や色彩を駆使して、妖しくも神秘的な画面を創り出している手腕は確かな画力が感じ取れる。

【入賞者及び入賞作品】

○芸術祭賞

芝野 孝陽（しばの たかはる）〈真岡市〉 「静寂」

○準芸術祭賞

深澤 郁男（ふかさわ いくお）〈宇都宮市〉 「蓮華」
菅谷 民子（すがや たみこ）〈鹿沼市〉 「初秋の水辺」

○芸術祭奨励賞

菅野 泰史（すがの やすふみ）〈宇都宮市〉 「まなざし」
川勾 英雄（かわわ ひでお）〈下野市〉 「鶏小屋」
竹内 光江（たけうち みつえ）〈小山市〉 「刻の想譜」
橋本 千津子（はしもと ちずこ）〈日光市〉 「立春の朝」
渡辺 良介（わたなべ りょうすけ）〈益子町〉 「いつもそばに」

○U25賞

デンプシーレオン竜（でんぷしーれおんりゅう）〈宇都宮市〉 「始祖蟬」

令和4年度第76回栃木県芸術祭美術展審査結果（彫刻部門）

| | | | |
|-------|-----|--------|------------|
| ○応募総数 | 23点 | [23点] | |
| ○入賞点数 | 5点 | [9点] | |
| ○入選点数 | 18点 | [12点] | * []内は昨年度 |

【審査寸評】

本年度の彫刻部門は、昨年に比べ作品ひとつひとつのサイズが全体的に大きく、製作技法もバラエティに富んでおり見ごたえがあった。

審査では、作者の意図や作品に対する向き合い方がより強く伝わってくる作品が入賞作品として評価された。

○芸術祭賞「おい俺さまにのんな だいじょーぶ！」

様々な素材を巧みに使い分け調和させる、素材への造詣の深さとセンスが魅力的である。また、大胆に身体をうねらせ、顎をずらしたりと、恐竜の迫力を出す為の造形的な工夫がなされている。

コロナ禍により、行動制限を強いられ、遊ぶ機会が減った子供たちを励ますという制作意図どおり、前向きなエネルギーを感じる作品である。

○準芸術祭賞 該当なし

○U25賞「ねじれ」

作品としてスリムに立ち上がりながらも、動的な要素も含まれている。コンセプトを抽象形態に当てはめ、まとめる中で量感や線での誘導をもっと意識することで躍動感あふれるものになってくる。構造上の緩急もポイントに置いておいて制作して欲しい。

【入賞者及び入賞作品】

○芸術祭賞

深井 安久 (ふかい やすひさ) 〈壬生町〉「おい俺さまにのんな だいじょーぶ！」 69歳

○準芸術祭賞

該当なし

○芸術祭奨励賞

| | | |
|------------------|--------|----------|
| 長谷川 滋 (はせがわ しげる) | 〈宇都宮市〉 | 「戦ふ 聖堂」 |
| 長 睦 (ちょう あつし) | 〈小山市〉 | 「ビルのハニワ」 |
| 小川 兔子 (おがわ とうこ) | 〈宇都宮市〉 | 「奇生」 |

○U25賞

伊藤 彪人 (いとう ひゅうと) 〈真岡市〉 「ねじれ」

令和4年度第76回栃木県芸術祭美術展審査結果（工芸部門）

| | | | |
|--------|-----|--------|-------------|
| ○ 応募総数 | 66点 | [73点] | |
| ○ 入賞点数 | 9点 | [9点] | |
| ○ 入選点数 | 54点 | [56点] | * [] 内は昨年度 |

【審査寸評】

本年の工芸部門は、コロナ禍の影響により昨年に引き続き漆芸出品数の減少が見られとても残念に思います。その中でも竹芸の出品が伸びており、本県の工芸の中でも注目の高さが伺え、芸術祭賞と準芸術祭賞をW受賞しています。

その他の作品も目を見張る作品ばかりで展示をするのがとても楽しみで色々と思考を巡らせています。

昨今の公募展離れが深刻な中、本年は9賞のうち4賞が初入賞に輝いており、新しい出品者のレベルの上昇が見られました。

本年の展覧会を見た人々が感動し、出品意欲の起爆剤になってもらえれば、来年度はよりすばらしい芸術祭ができることでしょう。

○芸術祭賞「網代編盛籃」

全体を網代編で二色組合せでまとめ、バランスの取れた作品に仕上がっていて素晴らしいです。フォルムも無理のない美しい線に出来ていて、落ち着いた作品になっています。

○準芸術祭賞「黒の変容体」

形が美しくまとまっています。また、失透の黒釉が良く合って形を強調しており、締まった印象になっています。

○準芸術祭賞「古竹網代・千鳥編花籃」

網代編の上に千鳥編を重ねて、しっかりした作りであった。外側の千鳥編のところに、縦に古竹の網代編の縞模様が心地良い。また、上部の口の部分の切り込みに変化が有りおもしろい。

【入賞者及び入賞作品】

○芸術祭賞

吉澤 克己 (よしざわ かつみ) <大田原市> 「網代編盛籃」 (木竹)

○準芸術祭賞

稲葉 武雄 (いなば たけお) <下野市> 「黒の変容体」 (陶芸)

西澤 光一 (にしざわ こういち) <宇都宮市> 「古竹網代・千鳥編花籃」(木竹)

○芸術祭奨励賞

大柳 火幹 (おおやなぎ かかん) <日光市> 「青伊羅保壺」 (陶芸)

室井 美代子 (むろい みよこ) <大田原市> 「心象草木染」(平和を祈りに) (染色)

渡邊 陽子 (わたなべ ようこ) <日光市> 「蒔絵文箱「菱」」 (漆芸)

ん太郎 (んたろう) <宇都宮市> 「天使のゆりかご」 (陶芸)

六角 春香 (ろっかく はるか) <鹿沼市> 「Magica」 (漆芸)

加藤 舞 (かとう まい) <益子町> 「鉄絵並白釉四段重」 (陶芸)